

スポーツ健康学専攻

健康の維持・増進とスポーツの発展に関わる 多様な領域に寄与できる高度専門的職業人を養成する

法政大学スポーツ健康学研究科が目的とするのは、スポーツ健康の分野において現代社会が期待する多面的な高度専門的職業人の養成です。これを実現させるためには「スポーツ健康学」分野において、ある特定の専門分野を深化させるだけでなく、関連する分野を総合的に学んでいくことが必要です。具体的には、幅広いスポーツ健康学に関わる基礎知識をベースに、スポーツと健康づくりに関わる各種の教育や事業を企画・立案、管理・運営、実践・指導、点検・評価することのできる高い専門知識と技術を身に付けるための学びです。これらを提供するために、スポーツ健康学研究科は「スポーツ健康学」を教育研究の土台としながらも、これまでの枠組みに縛られることなく、最新のスポーツ科学と健康科学を「総合的」に展開します。これにより、実践力の高い人材を育成し、健康の維持・増進とスポーツ発展に関わる多様な領域で社会に貢献していきます。

教員養成

本研究科は、中学校・高等学校教諭専修免許状（保健体育）の取得が可能です。「保健体育科」が意図する「保健」と「体育」の調和という原点に立ち返り、常に健康との関わりの中で、スポーツ・教材のあり方を考究できる教員を目標とし、「保健体育科教育法特別演習」などによって、現場に即した実践力のある教員の養成を目指します。

<p>アドミッション・ポリシー (学生受け入れ方針)</p> <p>下記の能力を備えた受験生を、各種選抜試験を通して入学させます。 ・入学後の就学および研究活動に必要な知識や技能を有している。 ・物事を多面的かつ論理的に深く考察することができる。 ・人間、スポーツ、健康、教育などに関わる諸問題に深い関心を持ち、高度専門的職業人として社会に貢献する意欲がある。 ・積極的に他者と関わり、対話を通して相互理解に努めようとする態度を持っている。 ・自分の考えを適切に表現し、伝えることができる。</p>	<p>カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成・実施方針)</p> <p>研究科の人材育成目的達成のために、下記のような教育課程を編成します。 基礎科目：スポーツ健康学分野における基礎的な素養を涵養し、また周辺領域の知識を身につけさせることを目的とする科目であり、すべて必修とする。 展開科目：基礎科目で修得した知識を土台として、修了後の職業を見据えた専門的な学びを発展させることを目的として、3つの科目群(スポーツコーチング、ヘルスプロモーション、スポーツマネジメント)を配置する。なお、「スポーツ健康学」の多様性に鑑み、科目群ごとの履修条件は設けない。 研究指導科目：修士論文執筆指導を行う科目。</p>	<p>ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)</p> <p>・「スポーツ」と「健康」およびそれらをとりにく「社会環境」について体系的に理解している。 ・スポーツ健康に関わる、自ら設定した課題について、それを解決する方策を導くことができる。 ・スポーツ健康学の知を実践の力へと高めることができる。 ・積極的に「スポーツ・健康づくりに自身の役割を自覚することができる。 ・スポーツ健康学の知を持って社会のニーズに応えることができる。 ・スポーツと健康づくりに関わる各種の教育や事業を企画・立案、管理・運営、実践・指導、点検・評価することができる。</p>
---	--	--

専任教員と主な担当科目 (2017年度) ※年度により授業を持たない場合があります。

<p>安藤 正志 教授</p> <p>専攻：リハビリテーション医学 研究テーマ：運動学、運動療法 担当科目：運動器疾患特論</p>	<p>泉 重樹 教授</p> <p>専攻：アスレティックトレーニング、スポーツ医学、鍼灸学 研究テーマ：体幹(腰部)の動作とエクササイズ評価、スポーツ外傷・障害に対する鍼治療 担当科目：スポーツトレーニング学特論、アスレティックトレーニング特別演習、スポーツ健康学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ</p>	<p>苅部 俊二 教授</p> <p>専攻：スポーツコーチング学、スポーツ心理学 研究テーマ：身体運動と言語イメージ 担当科目：スポーツコーチング学特論</p>
<p>鬼頭 英明 教授</p> <p>専攻：学校保健、健康教育、公衆衛生 研究テーマ：喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育、性教育、医薬品教育、健康教育 担当科目：公衆衛生学特論、学校保健学特論、スポーツ健康学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ</p>	<p>木下 訓光 教授</p> <p>専攻：スポーツ医学、循環器病学 研究テーマ：スポーツ心臓、エネルギー代謝、心肺運動負荷試験、生活習慣病の運動療法 担当科目：スポーツ健康学特論Ⅱ(自然科学)、スポーツ健康学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ</p>	<p>高見 京太 教授</p> <p>専攻：発育発達学、運動生理学 研究テーマ：子供の活動や生活習慣と体力・健康づくり、身体活動のエネルギー消費量 担当科目：発育発達学特論、スポーツ健康学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ</p>
<p>永木 耕介 教授</p> <p>専攻：スポーツ教育学 研究テーマ：教材文化論、武道教育論 担当科目：スポーツ教育学特論、保健体育科教育法特別演習、スポーツ健康学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ</p>	<p>中澤 史 教授</p> <p>専攻：スポーツ心理学 研究テーマ：アスリートの心理サポート(スポーツメンタルトレーニング)、スポーツカウンセリング、体育授業・運動部活動の心理学 担当科目：スポーツ健康学特論Ⅰ(心身科学)、スポーツメンタルトレーニング演習、スポーツ健康学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ</p>	<p>日浦 幹夫 教授</p> <p>専攻：スポーツ医学、神経科学 研究テーマ：運動負荷と関連する局所脳循環、局所脳酸素代謝、神経受容体計測 担当科目：スポーツ健康学特論Ⅱ(自然科学)、スポーツ健康学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ</p>
<p>平野 裕一 教授</p> <p>専攻：スポーツバイオメカニクス、トレーニング科学 研究テーマ：投打動作の分析、顕発的なパワー発揮を向上させるための筋力トレーニング 担当科目：スポーツ運動学特論、スポーツバイオメカニクス特論、スポーツ健康学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ</p>	<p>山本 浩 教授</p> <p>専攻：コミュニケーション論、ジャーナリズム論 研究テーマ：スポーツシーンのコミュニケーション、スポーツ実況論 担当科目：スポーツジャーナリズム特論</p>	<p>荒井 弘和 准教授</p> <p>専攻：スポーツ心理学、健康心理学 研究テーマ：スポーツマンシップの心理学的研究、マーケティング手法を用いた生涯スポーツ・障がい者スポーツの活性化 担当科目：健康心理学特論、チームビルディング演習</p>
<p>吉田 政幸 准教授</p> <p>専攻：スポーツマーケティング、スポーツ消費者行動 研究テーマ：スポーツイベントにおける集客、スポーツファン、スポーツレガシー、スポーツの社会的効果 担当科目：スポーツマネジメント特論、スポーツ消費者行動特論、スポーツフィールドスタディー演習、スポーツ健康学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ</p>	<p>井上 尊寛 専任講師</p> <p>専攻：スポーツ産業学、スポーツマーケティング 研究テーマ：スポーツ観戦者の観戦行動、プロ・スポーツクラブのマーケティング戦略 担当科目：スポーツ産業学特論、スポーツマーケティングリサーチ演習</p>	<p>林 容市 専任講師</p> <p>専攻：応用健康科学、生理心理学 研究テーマ：身体活動・スポーツ動作の感覚認知と運動制御、生理的状態と心理的情報との対応、種々の身体パフォーマンスに関する体力の測定・評価 担当科目：健康体力学特論、体力・機能測定評価演習、スポーツ健康学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ</p>

Graduate School of Sports and Health Studies
Major in Sports and Health Studies

募集人員： 修士課程10名
 開講形態： 昼間開講
 キャンパス： 多摩
 主な進路： 医療・健康関連産業、自治体での地域スポーツ・生涯スポーツ指導者、中学・高等学校の保健体育科教員、大学・研究所などの教育研究機関、スポーツジャーナリズム関連など

研究室紹介

平野 裕一 教授



目的に合った動作を身につけることに資する研究

スポーツにみられる動作および用具の運動を計測・分析し、目的に合った動作を見出して競技力向上に役立てる

バイオメカニクスとは、バイオ(生物)とメカニクス(力学)を語源とし、「身体に作用する力とその力が生み出す効果に関する科学」といわれます。「身体に作用する力」とは、自身が発揮する筋力に起因した反力および重力、抵抗力、浮力などです。そして「その力が生み出す効果」が動作の変容ということになります。したがって、どのように神経を働かせて筋肉を活動させると、そして身体の外からの力をどのようにコントロールすると目的に合った動作になるかを探るのです。生物として可能な神経支配や筋出力の中で力学的に適った動作を見出していくわけです。その中でも私は、脚の動きと腕の動きをどうマッチングさせると目的に合った動作になるかということに興味があります。

STUDENT'S VOICE



修士課程 在学中
川端 涼夏

将来の夢は実業団で陸上競技を続けた後、高校の教師になること。
今の学びを生かして、生徒を指導していきたい

私の研究

研究分野がアダプテッド・スポーツなので、まずは体験してみようと体験会に参加したり、協会の方にお話を聞きに行ったりもしています。まだ研究が十分に行われていない分野なのでやることはたくさんありますが、そのぶんやりがいも感じています。研究科では専攻にとられず様々な視点から学べるので、より現場に生かせる知識を身につけていきたいです。

将来の目標

将来は陸上競技を実業団で続けていきたいと思っています。競技生活が終わったら、今まで学んだことや経験を生かし、高校の教員になることが私の夢です。コーチング学、心理学、生理学…様々な観点から生徒を育てていける教師になれるように、日々勉強しています。いつか体育授業でアダプテッド・スポーツが指導要領に載り、生徒と一緒にできる日がくるといいです。

研究テーマ 保健体育の授業にアダプテッド・スポーツを取り入れることによる生徒の障害者理解に与える影響 一異なる授業形態の比較一

設置科目 (すべて2単位)

【修士課程】

基礎科目	研究デザイン・フィロソフィー、スポーツ健康学特論Ⅰ(心身科学) スポーツ健康学特論Ⅱ(自然科学)、スポーツ健康学特論Ⅲ(人文社会科学)		
	スポーツコーチング科目群	ヘルスプロモーション科目群	スポーツマネジメント科目群
展開科目	スポーツコーチング学特論 スポーツ運動学特論 スポーツバイオメカニクス特論 スポーツトレーニング学特論 発育発達学特論 スポーツ教育学特論 アスレティックトレーニング特別演習 スポーツメンタルトレーニング演習 チームビルディング演習 保健体育科教育法特別演習	健康体力学特論 健康心理学特論 運動器疾患特論 スポーツ栄養学特論 公衆衛生学特論 学校保健学特論 体力・機能測定評価演習 運動疫学演習	スポーツマネジメント特論 スポーツ産業学特論 スポーツメディア特論 スポーツ健康政策学特論 スポーツジャーナリズム特論 スポーツ団体構造特論 スポーツ消費者行動特論 スポーツフィールドスタディー演習 スポーツマーケティングリサーチ演習
研究指導科目	スポーツ健康学演習Ⅰ、スポーツ健康学演習Ⅱ、スポーツ健康学演習Ⅲ、スポーツ健康学演習Ⅳ		